

### (3) 自治体内のステークホルダーの意識付け

#### <町民講座の開催>

- 日時：2020（令和2）年12月17日（木）19:00～20:30
- 場所：標茶町 開発センター 町民ホール
- 内容：講演「SDGsを知る！ 見つける！ 考える！ ～身近な取組から持続可能な世界に～」
- 参加人数：29名

#### <町民講座の様子>



（開会挨拶（佐藤町長））



（講演の様子）

#### 【町民講座を開催したことにより得られた成果】

- ・身近な事例等の説明により、出席した町民等の理解が進んだ（新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、講義形式としたが、ワークショップなど参加者が考える形式の研修等がより効果的と考えられる）。
- ・出席した町民等の普段の生活に変化が生じることが期待される。

#### 【町民講座の開催を踏まえた今後の課題】

- ・まち全体としてSDGsの理解度は低いため、今後も町民への周知は必要。

#### 【町民講座の開催を踏まえた今後の展開】

- ・町民に対し、SDGsと関連づけた周知（アイコンの表示など）を検討する。

### <北海道標茶高等学校での勉強会の開催>

- 日時：2020（令和2）年12月18日（金）9:30～11:30
- 場所：北海道標茶高等学校
- 内容：SDGs勉強会「それぞれが考えよう！SDGsについて」
- 参加人数：16名（1～3年生混合）

### <勉強会の様子>



（開会挨拶）



（SDGsの概要説明）



（カードゲームの様子）



（振り返り）

### 【勉強会を開催したことにより得られた成果】

- ・まちの将来を担う若者を対象として開催したことで、SDGsへの理解促進はもちろん、今後のより良いまちづくりを考えることができる人材の形成にもつながった。
- ・標茶高校では既存の活動とSDGsを繋げた積極的な取組を行っており、今回の勉強会により、より意欲的にSDGsにつながる活動を実践していくと考えられる。

### 【勉強会の開催を踏まえた今後の展開】

- ・先進的にSDGsの推進に取り組んでいる標茶高校の取組を応援し、広く周知することで、町内一体でのSDGsを推進していく。
- ・今後の町政執行やSDGs推進にあたり、今回のつながりを意識した連携を検討する。

#### (4) 多様な主体の連携に向けた取組

##### <高校生と町内関係機関等との意見交換会>

- 日時：2021（令和3）年2月22日（月）9:30～11:30
- 場所：北海道標茶高等学校
- 内容：SDGs意見交換会
- 参加人数：12名

##### <意見交換会の様子>



(開会挨拶)



(参加者の自己紹介)



(高校生が感じている課題の発表)



(振り返り)

##### 【意見交換会を開催したことにより得られた成果】

- ・先進的取組を実践している標茶高校と町内主要機関との「つながり」を形成でき、高校の取組や課題に対する関係機関の連携方法・内容等について情報共有が図られた。
- ・総合計画においてSDGsを推進するという役場の考え、標茶高校が取組んでいることを関係機関へ情報提供できたことから、今後の町内でのSDGsの取組を推進する後押し（きっかけ）となった。





## VI 登別市・弟子屈町の取組事例

### ○新型コロナウイルス感染症による影響

- ・2021（令和3）年度も北海道において「緊急事態措置」、「まん延防止等特別措置」が措置され、感染対策に留意する必要があったことから、登別市・弟子屈町とも協議し、感染対策を行いながら、支援の取組を実施した。

### ○取組事例の記載方法

- ・2021（令和3）年度の支援先である登別市、弟子屈町については、支援内容に共通点が多くあることから、まとめて記載している。

## 1 事業実施にあたっての登別市・弟子屈町の状況

### 【実施したい取組】

登別市	<ul style="list-style-type: none"><li>●2020（令和2）年3月に策定した第2期登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、具体施策ごとにSDGsの17の目標を掲載している。2022（令和4）年度策定予定の登別市総合計画第3期基本計画・第3次実施計画や2026（令和8）年度策定予定の登別市総合計画第4期基本計画においても、SDGsの17の目標を掲載することにより、理念を共有し、さらなる取組の推進につなげていきたい。</li><li>●そのために、有識者からのアドバイス等をいただき、計画を作成していきたい。また、市職員に対してSDGsに関するセミナーや研修を実施し、意識の醸成につなげたい。</li></ul>
弟子屈町	<ul style="list-style-type: none"><li>●町の次期総合計画「第6次弟子屈町総合計画」を策定するにあたり、新たな計画にSDGsの要素を反映させる。</li><li>●「第6次弟子屈町総合計画」の策定に併せて役場内でのSDGsの理解を深めるとともに、計画策定を通し、町民への理解促進にもつなげていきたい。</li></ul>

## 2 支援いただいた有識者

登別市	<p>高橋優介氏（ワークショップデザイン describe with 代表）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道SDGs推進人材バンク登録者。</li> <li>・全国各地の学校や企業、行政機関等を対象にSDGsや社会貢献などの授業やワークショップを実施。また、「2030SDGsカードゲーム」、「SDGs de 地方創生」の公認ファシリテーターでもあり、SDGsに関連して広く活躍しています。</li> </ul>
弟子屈町	<p>奈須憲一郎氏（eggplant 代表）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道SDGs推進人材バンク登録者。</li> <li>・下川町役場で森林活用などの職務に従事、役場を退職後、NPO 法人森の生活ファウンダーや北海道地球温暖化防止活動推進員としても活動。また、企業がSDGsに取り組むことにより経済も環境も両立して発展するためのコンサルティング、SDGsに関する研修など環境、SDGsを中心に、広く活動しています。</li> </ul>

## 3 取組内容

令和2年度を取組も踏まえ、支援スキーム（当初想定）は、登別市・弟子屈町と協議し、次の〔①〕～〔③〕を設定した。

【支援スキーム（当初想定）】（登別市・弟子屈町共通（一部を除く））

〔①〕 支援の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3回の支援を実施、3回とも有識者を派遣</li> <li>● 北海道大学と道の連携の取組の一環として、北海道大学URASTATIONの職員も参画（登別市のみ）</li> </ul>
〔②〕 支援で目指す成果の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGsの要素の総合計画への反映に向け、その参考となる「アウトプット」の抽出</li> </ul>
〔③〕 支援の構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1回目～2回目の支援 ⇒職員、議会議員、学生など多様な主体を対象に、SDGsの理解に向けた取組</li> <li>● 3回目の支援 ⇒1回目、2回目に参加した方や、住民の方とSDGsを切り口に、登別市、弟子屈町のまちづくりについて議論し、アウトプット作成</li> </ul>

<日程及び内容> ※灰色部分は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

登別市		
	実施年月日	内容
第1回支援	R3.11.19	・SDGsの理解を高めるための研修会（SDGs説明・カードゲーム）を実施（市職員、市議会議員、経済団体職員）
第2回支援 (中止)	R4.1.14	・SDGsの理解を高めるための研修会（SDGs説明・カードゲーム）を実施（市民自治推進委員会委員ほか）
第3回支援	R4.5.20	・SDGsの概要説明 ・6つのゴールについて、ワークショップを実施 ・ワークショップ結果を発表（アウトプット） （市職員、市議会議員、市民自治推進委員会委員）

弟子屈町		
	実施年月日	内容
第1回支援	R3.10.11	・SDGsの理解を高めるための研修会（SDGs説明・ワークショップ）を実施（町職員）
第2回支援	R3.12.8	午前 ・SDGsの理解を高めるための研修会（SDGs説明）を実施（第6次弟子屈町総合計画策定委員会委員）
		午後 ・SDGsの理解を高めるための研修会（SDGs説明・ワークショップ）を実施（弟子屈高等学校生徒（1学年））
第3回支援 (午後中止のため 午前オンライン開催)	R4.1.23	午前 ・地域おこし協力隊などまちづくりを担う方を対象としたSDGsミーティングを実施（地域おこし協力隊ほか）
		午後 ・研修会（きっとみつけるSDGsじぶんにできること）を実施（町民対象）

<登別市の取組について>

[第1回支援]

(事前ミーティング)

日時	2021（令和3）年11月19日（金）10:30～11:30
場所	日本工学院北海道専門学校
参加者	登別市、高橋氏（有識者）、北海道大学UR Aステーション、道
内容	当日の内容の最終確認、第2回以降の進め方
成果	<p>・事前ミーティングを行うことで、当日の段取りを共有できた。</p> <p>・第2回以降の進め方について、参加者による意見交換を行うことにより、参加者全員が、共通認識を持ち、取組を進めていくことが確認できた。</p> <p>&lt;確認したこと&gt;</p> <p>①：第2回支援は12月、第3回支援は年明けで開催することとした。</p> <p>②：第2回支援は第1回支援とは別の参加者を募集し、第3回支援には、第1回、第2回の参加者にも可能な限り参加していただき、議論を深めることとした。</p> <p>これに伴い、第2回も、第1回と同様の支援を行い、第3回の手法は、第2回までを踏まえ検討することとなった。</p> <p>③：第3回支援の結果をアウトプットとすることとした。</p>  <p>(事前ミーティングの様子)</p>

(研修会)

日時	2021（令和3）年11月19日（金）13:30～16:30
場所	鉄南ふれあいセンター
参加者	市職員、市議会議員、経済団体職員（30名）
内容	SDGsカードワークショップ「2030SDGs」
成果	<p>・カードワークショップに先立ち、SDGsの概要説明を行ったことで、参加者の理解が一層促進された。</p> <p>・カードワークショップは、チームに分かれて実施するものであり、経済・環境・社会の統合的解決に向け、チーム内での思考のほか、他チームとのコミュニケーション（交渉）なども必要とし、体感的にSDGsの理解を促進するものである。</p> <p>実際に、まちづくりの検討を行う場合、特に、行政機関としては、すべてのゴールに関与していることが多く、SDGsを切り口に議論していくことで、論点も明確となり、多様な主体との議論の活性化が図られる点において、非常に参考となるものであった。</p> <p> (SDGsの概要説明の様子)</p> <p> (カードワークショップの様子)</p>

[第2回支援]

新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(中止に伴う今後の取組に関するミーティング)

日時	2022（令和4）年1月14日（金）14:00～16:00
場所	鉄南ふれあいセンター
参加者	登別市、高橋氏（有識者）、道
内容	今後の進め方
成果	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった第2回支援の取扱い及び第3回支援の内容について、確認できた。</p> <p>&lt;確認したこと&gt;</p> <p>①：第2回支援は中止とし、最終回として、第3回支援を開催することとなった。</p> <p>②：第3回支援は、SDGsの議論を深めるため、当初の予定どおり、第1回支援の参加者、第2回支援の参加者予定者に可能な限り参加していただくこととなった。</p> <p>ただし、第2回が中止となったことから、第3回において、第2回参加予定者向けにSDGsの概要説明を行い、その後、ワークショップを行うこととなった。</p> <p>③：ワークショップについては、市が6つのゴールを選定し、そのゴールについて、将来のまちの姿について、議論を行い、発表する形とすることとなった。</p>

[第3回支援]

(事前ミーティング)

日時	2022（令和4）年5月20日（金）13:30～14:00
場所	鉄南ふれあいセンター
参加者	登別市、高橋氏（有識者）、北海道大学UR Aステーション、道
内容	当日の内容の最終確認
成果	事前ミーティングを行うことで、当日の段取りを共有できた。

(研修会)

日時	2022（令和4）年5月20日（金）14:30～17:30
場所	鉄南ふれあいセンター
参加者	市職員、市議会議員、市民自治推進委員会委員（26名）
内容	SDGsの概要説明、6つのゴールについて、ワークショップを実施
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップに先立ち、SDGsの概要説明を行ったことで、参加者の理解が一層促進された。</li> <li>・ワークショップは、市の提示したゴール（3、5、11、12、14、15）ごとに行われ、市・有識者・道で相談し設定したゴールに関連する3つの質問をベースにワークショップにおいて議論を行った。3つの質問は自身の普段の生活に落とし込み検討できる内容が多いこともあり、各々が、日々、過ごしている中で質問事項に対し、どう向き合っているのか、考えやすい点も寄与し、活発な議論となった。</li> </ul>

その後、ワークショップの結果を各グループから発表を行い、他のグループにも考え方を共有するとともに、市の今後のSDGsの取組の土台を提供することができた。

(ワークショップのテーマ・3つの質問・まとめ)

SDGsモデル研修 各テーブルテーマ

健康チーム  
3

【みなさんと話したいこと】

①生涯学習や健康増進を行うための施設が充実していると思う？  
(図書館、スポーツ施設など)

②健康づくりのために運動(ウォーキングなども含む)に取り組んでいる人が多いと思う？

③障がいがある人とない人が共に交流したり活動したりする場があると思う？

①心も体も健康な登別

②そのために…健康づくりの情報を得ることができて、自分の希望する活動を選択し取ることをできる

SDGsモデル研修 各テーブルテーマ

ジェンダーチーム  
5

【みなさんと話したいこと】

①ここからだが健康だと感じている人が多いと思う？

②理想の子育てができるような環境があると思う？  
(子育てに関する家族や地域、会社のサポート、社会制度などを含む)

③自分も含めた周りの人は、ジェンダー平等への意識が高い人が多いと思う？

①世界の登別

②世界中からさまざまな人が集る登別の魅力を改めて認識し、定住が進めば子どもが増える。世界中に目を向けて、温泉を活用した取り組みを

SDGsモデル研修 各テーブルテーマ

まちづくりチーム  
11

【みなさんと話したいこと】

①自分たちが住んでいるまちの将来について、関心がある人が多いと思う？

②子どもが将来の夢や希望の実現に向けて学べる環境があると思う？

③周辺市町よりも、登別市の方が暮らしやすいと感じている人が多いと思う？

若い世代が楽しく生活できる町にするためには？

- ・お金がなくても、日常的に行ける遊水場所、整備された公園
- ・若いものができる場所、シェアリングモビリティ流行りかたが店

SDGsモデル研修 各テーブルテーマ

責任チーム  
12

【みなさんと話したいこと】

①地元や住んでいる都道府県産の物(農産物・製品)を買っている人が多いと思う？

②登別市は自然エネルギー(太陽光、地熱、バイオマス)の活用が進んでいると思う？

③節電、リサイクル、ごみ減量など、地域環境に配慮した生活(家庭・職場)をしている人が多いと思う？

テーマ: 登別市は自然エネルギーの活用について

①未来像

- ・自然エネルギー
- ・地域産業
- ・観光

②多クワン

- ・利便性
- ・段階利用
- ・住み手

SDGsモデル研修 各テーブルテーマ

海チーム  
14

【みなさんと話したいこと】

①生活環境(水・空気・土壌・騒音)について安全で快適だと思う？

②海辺や川辺などレジャー利用ができる場所には、ゴミがない方だと思う？

③海や山などの自然環境を守るための取組みに参加している人が多いと思う？

①「ゴミのおちていないのは」

②海の上のバトラー情報発信(動画等)

- ・観光地(水辺、自然環境)を中心にSNSで発信する
- ・周知活動(中核・観光客と連携)

SDGsモデル研修 各テーブルテーマ

緑チーム  
15

【みなさんと話したいこと】

①自然の生き物(動物・植物)と触れ合う機会があると思う？

②市民は、まちのルール(ゴミの分別など)にしっかりと取り組んでいる人が多いと思う？

③海や山などの自然環境を守るための取組みに参加している人が多いと思う？

①自然とふれあえる道の馬場がある

②、グリーン作戦をもっと増やす

- ・子どもの名前を植樹
- ・道の馬場を周りに

<弟子屈町の取組について>

[第1回支援]

(事前ミーティング)

日時	2021（令和3）年10月11日（月）10:00～11:40
場所	弟子屈町役場会議室
参加者	弟子屈町、奈須氏（有識者）、道
内容	当日の内容の最終確認、第2回以降の進め方、総合計画へのSDGs要素の反映
成果	<p>・事前ミーティングを行うことで、当日の段取りを共有できた。</p> <p>・第2回以降の進め方について、参加者による意見交換を行うことにより、参加者全員が、共通認識を持ち、取組を進めていくことが確認できた。</p> <p>&lt;確認したこと&gt;</p> <p>①：第2回支援は11月、第3回支援は年明けで開催することとした。</p> <p>②：第2回支援は、多種多様な団体を集める意見交換会を行う方向となった。また、弟子屈高校の生徒向けワークショップが可能か、高校側と調整を行うこととなった。</p> <p>第3回支援は、町民向けセミナーを行う方向となった。</p>



(事前ミーティングの様子)

(研修会)

日時	2021（令和3）年10月11日（月）13:30～15:30
場所	弟子屈町公民館講堂
参加者	町職員（30名）
内容	S D G s の概要説明、ワークショップ「宇宙船 S D G s 号」
成果	<p>・ワークショップに先立ち、S D G s の概要説明を行ったことで、参加者の理解が一層促進された。</p> <p>・ワークショップは、地球に人が住むことができなくなり、地球環境が回復するまでの長期間、500 人乗りの宇宙船で生活することを前提に、何を宇宙船に持ち込むべきかを考える内容である。</p> <p>限りある検討時間の中で、「持続可能」を意識しながら、空気や水、食糧などの必需品や、発生する廃棄物の処理など考える必要があり、体感的に S D G s を理解でき、非常に参考となるものであった。</p> <p></p> <p>( S D G s の概要説明の様子 )</p> <p></p> <p>(ワークショップの様子)</p>

[第2回支援]

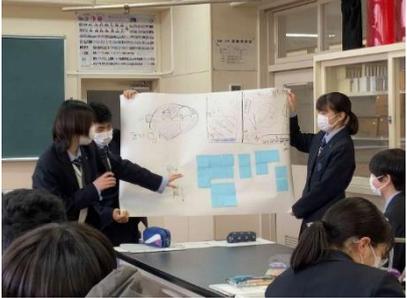
(事前ミーティング)

日時	2021（令和3）年12月8日（水）10:30～10:40
場所	弟子屈町役場会議室
参加者	弟子屈町、奈須氏（有識者）、道
内容	当日の内容の最終確認
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前ミーティングを行うことで、当日の段取りを共有できた。</li><li>・第3回支援の進め方について、第1回支援、第2回支援の参加者にも参加いただく方向で調整するとともに、具体的内容については、別途、弟子屈町、奈須氏、道で調整することとなった。</li></ul>

(研修会)

日時	2021（令和3）年12月8日（水）11:00～12:00
場所	弟子屈町役場会議室
参加者	第6次弟子屈町総合計画策定委員会委員（8名）
内容	SDGsの概要説明
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・SDGsの概要説明とともに、温泉熱の活用など、弟子屈町が有する様々なポテンシャルを例示した説明や、下川町の事例紹介も行われた。</li><li>・第6次弟子屈町総合計画を議論する委員には、オール弟子屈としての総合計画の意識があり、SDGs視点で弟子屈町を考える「きっかけ」として、非常に参考になった。</li></ul>  <p>(SDGsの概要説明の様子)</p>

(研修会)

日時	2021（令和3）年12月8日（水）13:15～15:00
場所	北海道弟子屈高等学校
参加者	1年生（23名）
内容	気候危機に対し行動するユースとあなたと弟子屈町 （SDGsの概要説明、ワークショップ「宇宙船SDGs号」）
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ワークショップに先立ち、SDGsの概要説明を行ったことで、参加者の理解が一層促進された。</li><li>・ワークショップは、第1回支援と同様に「宇宙船SDGs号」で実施。</li><li>・グループ内で、生徒の皆さんは、「自分たちならば、どうするか」、自分事として捉え、楽しみつつも、真剣に、様々な議論・アイデアを出しながら、意見をまとめており、最後の発表も、イラストなども差し込むなど、わかりやすく伝えようとする意気込みが感じられた。</li><li>・非常に明確に自分たちの意見を発表しており、短時間ながらも、しっかりとSDGsについて考えることができていることが伝わってくる内容であった。</li></ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"><div style="text-align: center;"><p>(SDGsの概要説明の様子)</p></div><div style="text-align: center;"><p>(ワークショップの様子)</p></div></div>

[第3回支援]

新型コロナウイルス感染症の影響により、午後に予定していた町民セミナーは中止となったが、午前中に当初から予定していたまちづくりを担う方を対象としたSDGsミーティングをオンラインで実施

(まちづくりを担う方を対象としたSDGsミーティング(オンライン))

日時	2022(令和4)年1月23日(日) 10:00~12:00
場所	オンライン(Zoom)
参加者	弟子屈町地域おこし協力隊、町職員など町内関係者(6名)
内容	SDGsに関する概要説明、下川町の事例紹介、意見交換
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、自己紹介後、奈須講師によるSDGsに関する概要説明・下川町の事例について紹介を行い、その後、意見交換を実施した。</li> <li>・下川町の事例紹介では、GoogleEarthを活用したオンラインツアー方式で行われ、地理的にも、視覚的にも、取組を認知することができ、理解促進に寄与した。</li> <li>・意見交換では、下川町と弟子屈町を比較した上での意見のほか、参加者が日頃の活動の中において、SDGsの取組を推進していく上で、疑問に思っている点や悩んでいる点について、意見を述べ、それに対し、奈須講師からのアドバイスのほか、役場の立場からの考えを説明が行われた。</li> <li>・参加者全員から、今後の取組を進める上で、「役立つ」、「参考になった」との意見があり、SDGsの理解促進が図られた。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>(ワークショップの様子)</p> </div>

#### 4 取組全体における成果や今後について

登別市、弟子屈町ともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、支援内容に工夫が必要となったが、そのような中においても、職員向けの研修会などを通じ、総合計画へのSDGs要素の反映に寄与することができた。

また、住民や企業・団体・学生の方を対象にした研修会を実施を通じ、理解促進に寄与することができた。参加者は、各自が自分事としてどう取り組むべきかなどについて、議論を行った経験は、今後、登別市、弟子屈町において、SDGsの取組を展開していく上での「きっかけ」となるものであり、SDGsの取組拡大が期待される。

そのためにも、登別市、弟子屈町ともに、今回の支援に関わっていただいた方以外の住民・企業・団体・学生など、多様な主体による理解促進、実践が課題となる。行政機関として、引き続き、SDGsに取り組む必要もあるものの、行政機関のみが取り組む状況になっては、市町村内での持続可能な取組展開は難しい。多様な主体とともに市町村全体で行動していくためにも、引き続き、普及啓発等を行いながら、SDGsの裾野拡大につなげていく必要がある。

## VII 今後の進め方

2020（令和2）年度の支援事業では、厚真町は幹部も含めた役場職員の理解の促進や役場の重点施策としてのSDGs推進事業の検討など主に役場におけるSDGsの推進について検討を行い、今後の施策検討に向けた基礎を構築しました。

一方、標茶町では、役場内での理解促進を進めつつ、一般町民や高校生、関係機関を含む多様なステークホルダーとの連携を重視し、意見交換会などを通じた今後の連携体制の基礎を構築しました。

また、2021（令和3）年度の支援事業においては、登別市、弟子屈町ともに、総合計画へのSDGs要素の反映を希望するものであり、支援事業を通じて目標とするところは、2020（令和2）年度と同様でした。いずれも、合計3回の支援に対し、1回目、2回目でSDGsの理解を促し、3回目でアウトプットを導き、総合計画へ反映する手法を実施することとしました。新型コロナウイルス感染症の影響で支援内容を工夫する必要がありましたが、2020（令和2）年度、2021（令和3）年度、いずれの事例も、市町村がSDGsを推進するにあたり、モデル的なアプローチ手法であると考えられます。

今後も引き続き、市町村支援を通じ、参考となる取組については当該モデルに追加するなど、モデルの効果的な発信に努めます。

## Ⅷ 総括 ～支援事業を通じて～

2020（令和2）年度、2021（令和3）年度の支援事業を通じ、市町村におけるSDGs推進を図る上で、市町村総合計画や市町村総合戦略（以下、「市町村総合計画等」、という）の策定・改訂の際に、SDGs要素の反映を行うことは、有効な手段と考えており、その主な理由は2つあります。

第一に、行政機関として、最上位計画に位置付けられる市町村総合計画等にSDGs要素の反映を行うことで、組織全体としてSDGs推進に取り組む仕組みとなる点が挙げられます。

第二に、市町村総合計画等は多岐にわたる分野をカバーするものであることから、まちづくり全般でSDGsのゴール・ターゲットを考える絶好の機会となる点が挙げられます。なぜなら、市町村総合計画等は、各市町村の多様な主体、企業・団体・子どもたち、そうした方々と一緒にワークショップなどを行いながら、「共に将来のまちのあり方」を考えて、完成した成果物であり、そこでは、地域の弱み・強み、未来に向け必要な取組の方向性といった議論が行われているからです。

また、メリットもあります。現在、国では、SDGs未来都市の認定を行っており、認定数は154（R4.6.30現在）となっています。このSDGs未来都市も、自分たちのまちの現状や今後の方向性を踏まえ、どのゴール・ターゲットに貢献しているか、貢献していくべきか、などを考える必要がある点において、市町村総合計画等と親和性が高いと考えており、未来都市を考える「きっかけ」にもなります。

加えて、SDGs未来都市の認定を受けることで、市町村PRにもつながるほか、SDGs未来都市が申請できる「自治体SDGsモデル事業」にも応募可能となり、財源的な支援も受けることができる可能性もあります。

### [最後に]

SDGsは、多様な主体の参画を促し、連携していくものです。市町村総合計画等の策定・改訂における多様な主体との「つながり」をSDGsの取組にも活かすこともでき、それが、結果として、市町村における政策展開の実効性を、より高めていくための効果的な手法でもあると考えます。

手法の1つではあるものの、市町村総合計画等へのSDGs要素の反映は、メリットが多いものであると道では考えています。本書を手にとっていただいた市町村の皆様において、SDGsの取組の裾野拡大に向け、検討の1つとして加えていただけると幸いです。





市町村におけるSDGs推進モデル

令和3（2021）年 5月 策定

令和4（2022）年 7月 改訂

北海道総合政策部計画局計画推進課